

## 【小学生の部】優秀賞

### 「目には見えない心のふれあい」

坂井市立大関小学校 5年 水澤 零



「今年の夏休み、ひいばあちゃんの食事介助してみない。」

と祖母が私に言った。

「え、なんだが大変そうだな。」と思い最初は気が乗らなかつた。でも祖母の強いすすめでやってみることにした。

私のそう祖母は、にん知症だ。八年ほど前に、発しようした。最初のころは、身のまわりのことは自分で出来たし、私の名前もよんでくれた。でも、3年ぐらい前から何もわからなくなつて、今はしせつにいる。

八月の半ば、祖母といっしょにしせつをおとずれた。手洗い消毒をすませて中に入ると、若い男の職員さんが、笑顔でむかえてくれた。そう祖母の部屋に入ると、ベッドでねていた。祖母が、

「元氣やつたか。もう大丈夫か。」

と声をかけた。ぼんやりと目を開けて、遠くを見つめている姿を見て、私は何を話しかけていいか分からずに、ただ立っているだけだった。しばらくすると、食事の時間になり、食堂に行くことになった。さっきの男の人が来て、そう祖母をかかえて、車いすに乗せた。「やつてみようかな。」

私は、車いすをおしてみた。席につくと、食

事が運ばれてきた。初めに、のどをうるおすためにお茶をあげた。おどろいたことにお茶がトロトロしていた。私は、まだなれていないので、一口目は祖母にやり方を見せてもらった。二口目は私がやつてみた。一才の妹にスプーンでご飯を食べさせたこともあるので、簡単にできるだろうと思つたけれど、うまく口に運ぶことができずにこぼしてしまつた。それは、きんちようしていて、手がふるえてしまつたからだ。きつと、そう祖母が何もしゃべらず、表情もかえずにいたからだと思う。祖母が、食べさせている様子を見ると、いつも声をかけながら、やさしく、そう祖母にあげていた。なので、私も真似して、「はい。次は、ご飯だよ。」

歩けなくなつたので、きん肉が落ちていて固くなつてしまうので、もまなくてはいけないそうだ。もんでいると、骨にあたつて細くて、すぐに折れてしまふそうだなと思つた。そう祖母は、昔は畑や田んぼの仕事をして、朝からばんまで働いていたそうだ。それなのに、こんなに細くなるんだな。と思うと、ちよつとさみしくなつた。

初めて、体験してみているいろいろなことが分かつた。それは、職員の人みんな明るく笑顔で、やさしいということなど、何も感じていないと思つてみた、そう祖母にも表情や気持ちがあるということだ。どちらかといえば、暗いというイメージだった、老人しせつが明るいイメージに変わった。そして、一番大事なものは、人と人の心のふれあいということが分かつた。

私のことは、もう忘れているかもしれないが、また笑顔になつてもらふために、お手伝いに行きたいと思う。



## 【中学生の部】優秀賞

### 「人との関わり」

南越前町立南条中学校 2年 奥村 心音



私は、今、人と関わる事にとても魅力を感じています。以前の私は、人と関わるのがめんどくさいと思っていました。嫌な気持ちになる事もあるし、嫌な気持ちにさせる事もあるからです。しかし、人との関わりに魅力を感じるようになったのは、ボランティアがきっかけです。

私は、福祉委員会に入っています。委員会の活動で、一人暮らしをするお年寄りと一緒に、話したり、遊んだり、昼食を食べたりしました。初対面の人たちで、緊張していた私だったけど、だんだん話もはずんできて、とても楽しいなあと思うようになりました。この活動をしなければ、こんな気持ちは味わえなかったと思います。ボランティアは、する側もされる側も笑顔になれるという事を、この活動を通して実感できました。

私は、地元で行われるマラソン大会のボランティアを夏休みにしました。そのボランティアは、ランナーや応援に来た人々にドリンクを配るという内容でした。

小さい子からお年寄りまでたくさんの方が参加していて、想像以上に大変でした。また、外国の方もいたので驚きました。このボランティアは、ただ、たんにドリンクを渡すだけだともうかもしれません。しかし、

「お疲れ様です。」

などと、声をかけながら渡していくと、

「ありがとう」

などと返事が戻ってきて、とてもうれしく、

「やって良かったなあ。」という気持ちになりました。

外国の方もいたので、

「Here you are.」

と言ったら、

「Thank you.」「Good job.」

と返事が返ってきて、なんだかとてもうれしくなりました。外国の人と学校以外で話したことがなかったので、少しだけでも会話ができただけでも、自分への自信につながりました。

私は、人のために動ける人間になりたいと

思っています。そのための第一歩として、ボランティアに進んで参加しました。ボランティアは、人と関わる事が多いです。一つの声かけ、一つのあいさつで笑顔になってくれて、人と関わりと良い事もあるんだと前向きに考えることができました。

「人と関わる事は、嫌な事ばかりでなく、うれしい事もある。」という事を、ボランティアを通して分かることができました。

めんどくさいと自分から距離をとるのではなく、自分から積極的に離しかけていきたいと思えます。

このボランティアを通して、もっと人との関わりを大切にしていこうと思いました。



## 【高校生の部】 優秀賞

### 「私がボランティア活動で感じたこと」

敦賀気比高等学校 3年 石川 いづみ



私がボランティア活動を始めたきっかけは、姉の誘いからです。昔からボランティアには興味があり、参加するようになりました。最初のボランティアでは、老人ホームの体育大会補助でした。その時は何をしたらいいかわからず、スタッフさんの指示をされたことだけをしていました。人とコミュニケーションをとることが苦手な私は、高齢者の方たちとお話をしたりすることができなくて、後悔しました。

他にも私が体験したボランティアは、サマールボランティアで保育園のお手伝い、特別支援学校の補助、松原清掃、福島でのボランティアに行きました。

私が体験したボランティアのなかで一番思い出に残っているものは、福島でのボランティアでした。このボランティアは、全国から三十人くらい集まって五泊六日、一緒に過ごしてボランティアをするというものでした。被災地のいまの状況や、仮設住宅の状況を自分の目見ることが出来るし、また、コミュニケーション力を高めることが

出来るというので参加しようと思いました。私は人見知りする部分があるので、初めて会う人たちと仲良くなれるのかとても心配でした。だけどみんな気さくな人が多く、たくさんの人とお話することができ、少し人見知りを改善することができました。

仮設住宅では、私たちは前日に作ったカレーと、杏仁豆腐、焼きそばを持って行き、仮設住宅のみなさんに配りました。私はここで、たくさんの笑顔と勇気をもらいました。本当はわたしが笑顔と勇気を送りたかったが、みなさんに「ありがとう」という言葉をたくさんもらいました。

しかし、仮設住宅では住居者みんながこのボランティアを良く思っているのではないのだと、現地に行つて初めて知りました。

また次の日には老人ホームに行きました。初めてボランティアをした時よりも、高齢者の方たちに積極的に関わることが出来たが、「また来てね」と言われた時、

「また来るね」と言うことができず、とても

悲しい気持ちになりました。なので私は、この老人ホームに行くことが出来ないのので、地元の老人ホームでのボランティアでは参加をたくさんしていきたいなと思いました。この福島でのボランティアをして学んだことは、私は今までボランティアをしていたときは違って、五泊六日一緒にボランティアをして、ボランティアには仲間との協力がとても大事だと学ぶことができました。

私は今後もボランティア活動は、続けていきたいと思っています。理由は、私にとつてのボランティア活動は、自分への成長につながっていると思っているからです。少しずつ自分の短所をボランティア活動で改善されてきているし、将来私は看護師という、人と触れ合う職業を目指しているのので、

私にとつてまだまだ必要なコミュニケーション力を高めていきたいと思っています。

## 【一般の部】優秀賞

### 「ボランテИА活動から教えられた事」

鯖江市 笠島 眞理子



「こんにちは。」

「こんにちは。」

と、明るいあいさつで始まります。

先日私は、友人に誘われて介護施設へボランテИАに行ってきました。そこにいた人達は、施設のデイサービスで来ていたのです。私は何をしていたのかわからず、一緒に行った友人達のお手伝いで、最初は一緒に歌を歌いました。この日を楽しくみにして来た人もいれば、初めての参加でどう接していいのか、体がカチカチの人もいました。

一曲目、皆知っている童謡から始まりました。曲も友人達が選曲し順番も考え、演歌、ポップス、フォークソングと幅広くとりいれ、手足の運動も考慮して振り付けまで考えてきていました。二曲目、三曲目とだんだん体も動いてきて、みんな口ずさみながら笑顔が出てきました。自然に私も曲にのりのりになり、デイに来ている人達から私がパワーをもたらしている様で、心がうきうきしてきました。又、友人達が用意してきた楽器を歌と一緒に奏でる時間もありました。

楽器は、タンバリン、鈴、手作りのバチ等、自分の出来るものに挑戦してもらいました。右手でも左手でも曲に合わせて一緒に参加

する事に私もデイの人達も喜びを感じました。

次は「シャボン玉」の曲にのせて、シャボン玉も飛ばしました。勿論、友人達は初めシャボン玉を作り飛ばし、その繊細なシャボン玉が自分の所に飛んで来るのを満面の笑みで見ている目はキラキラ光るものがありました。私達は皆、童心に帰り幼い頃の自分に戻った様でした。その後は、デイの人達が自分で飛ばします。失敗したり、とつても大きなシャボン玉を作ったり一生懸命さが伝わってきました。友人達は、歌うときも、デイの人、一人一人の横に行き、寄りそい一緒に時間を楽しく過ごすのです。ボランテИАの基本かなと思えました。

でも、ボランテИАも形だけじゃなく、一声かけるだけでもその人を勇気づけたり、一歩前へ進むきっかけになったりする事もあります。これも立派なボランテИАだと思います。

私は、亡き主人と二十数年前に無線の免許を持ちました。その時、交信した人達は車いすの人達もたくさんいらっしやいました。その人達とバーベキューをしたり、花見に行ったり楽しい時間をたくさん過ごしました。

その時は、ボランテИАじゃなく、一緒に一日を共に行動して親睦を深めると言う会でした。

この様な事を考えると、行動や言葉だけじゃなく、今、自分に出来る事を日常生活から見つけ、趣味や好きな事から見つけていき、それがプラスの方向へ、同じ方向へ向いていけばいいのかなと思えました。

「それでは、又、お会いしましょうね」と、デイの人達との最後をしめくりました。

「あっ」という間の一時半でした。友人の笑顔、デイの人達の笑顔、そんな光景を見て「ボランテИА」は、する人、される人ではなく、皆が心から一緒に笑顔でいられる空間を創る事、それが自然に共有できる事が大事だと気づかされました。

私は、友人のはつらつとした行動、素晴らしい笑顔に癒され、この目を過ごささせてもらって幸せでした。

